

令和7年度入学者選抜試験問題

(国際資源学部)

小論文

一般選抜（後期日程）

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子の中で、問題は3ページです。解答用紙は3枚あります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの乱丁・落丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合には、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 監督者の指示に従って、解答用紙に受験番号を記入しなさい。
- 5 解答は、解答用紙の該当欄に横書きで記入しなさい。
- 6 配付された解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
- 7 試験終了後、解答用紙のみ提出しなさい。問題冊子および下書き用紙は持ち帰りなさい。

問題 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

鉱物資源の中でも、非常に多くの国々にもっとも大きな問題を引き起こしているのは、世界の鉱物貿易の90%を占める石油だ^{註1}。資源の呪いとは、圧倒的に^①石油の呪いなのだ。

1980年以前には、資源の呪いの兆候はまったく確認されていなかった。途上国の産油国は、権威主義的な政府を持ち、また内戦に悩まされていたが、それは非産油国も同様だった。今日、産油国が権威主義的支配者に統治される傾向は、非産油国に比べて50%以上も高く、また産油国で内戦が発生する頻度は非産油国よりも2倍以上高い。産油国はより秘密主義的であり、財政が乱高下しやすく、女性に経済的、政治的機会を与えない傾向がある。(中略)

この呪いの惨禍が最大の影響を与えているのは、中東である。この地域には、世界中の石油の確認埋蔵量の半分が存在する。同時に、この地域は民主化、ジェンダー格差の解消、経済改革の進展において、他地域に比べ圧倒的に遅れている。この地域の石油は、イラク、イラン、アルジェリアといった数十年にわたる内戦に苦しめられている国の地下に眠っている。多くの観察者はこの地域の病を、イスラームの伝統や植民地主義の遺産に基づいて説明しようとする。しかし実際には、石油こそが中東の経済的・政治的問題の根本にあり、さらにこの地域の民主的な改革に対する最大の障害となっているのだ。(中略)

かつては、資源の呪いという現象が発生するとは考えられていなかった。1950年代と60年代には、経済学者は資源の富が国を助けるものであり、傷つけるものだと考えていなかった。(中略)なぜなら天然資源に恵まれた国々は、すばやい発展に必要な道路網や学校教育、その他のインフラに投資する十分な収入を得られるからだ。政治学者もまた、資源の富の利点を信じていた。(中略)1950、60、70年代には、このような従来型の知識はおおむね現実にあっていた。しかし1970年代になると、産油国では何かが悪化していたのである。(中略)

なぜ、石油は一国の政治と経済に対して、かくも奇妙な病を引き起こすのだろうか。(中略)石油の呪いは(中略)^②石油収入の持つ特殊な性質に起因する(中略)。^③石油収入は、四つのはっきりした性質を持っている。それは、規模、発生源、安定性、隠匿性である。こうした性質が発生する、あるいは悪化する原因は、国営石油会社の台頭にある。

石油収入の「規模」は膨大なものになり得る。平均して、産油国政府の規模は非産油国政府に比較して50%も大きい(国の経済活動に占める政府の割合から算出)。低所得国では、石油の発見は財政の爆発的拡大の引き金となり得る。一例を挙げると、2001年から2009年の間、アゼルバイジャンの政府支出は600%拡大

し、赤道ギニアのそれは 800%拡大した。こうした収入が巨大であるために、権威主義的な政府は反体制派を容易に沈黙させることができる。(中略)

収入の規模だけでは、石油の呪いを説明することはできない。(中略) ここで問題となるのは、収入の「発生源」である。石油から収入を得る政府は、国民から集められる税金ではなく、国有の資産、すなわち石油の富から収入を得ている。このことは、非常に多くの産油国が非民主的である理由を説明する。政府が税金で国庫を賄っている場合には、納税者である市民からより多くの制約を受けることになるが、石油によって資金を得ているのであれば、民衆からの圧力の影響を受けにくくなる。

問題のもう一つの原因は、石油収入の「安定性」に求めることができる。これは、不安定性と言い換えてもよい。国際石油価格の不安定さと産油国の石油埋蔵量の増減は、財政の不規則な大変動を生み出す。産油国政府がこの不安定さを自国ではほとんど管理できないという点に、なぜ産油国政府が資源の富を浪費してしまうのかという問いへの答えがあるだろう。また、収入の不安定さは(中略)政府側と反政府側が互いに歩み寄ることをますます困難にする。

最後に、こうした問題を石油収入の「隠匿性」が悪化させる。産油国政府はしばしば国際石油会社と共謀して両社間の取引を秘密にし、また自国の国営石油会社を使って政府の歳入と支出の両方を覆い隠す。サッダーム・フセインがイラクの大統領であった当時、政府支出の半分以上がイラク国営石油会社を経由したが、この会社の経費は秘密にされていた。他の産油国でも、同様の行為が見られる。隠匿性は、なぜ石油収入がかくも同じように浪費されるのか、なぜ石油から資金を得ている独裁者が政権に居座り続けることができるのか、という問いへの答えを示している。すなわち、隠匿性によって産油国政府はみずからの強欲さと無能さの証拠を隠蔽できるのだ。(中略)

石油収入がつねにこうした性質を持っていたわけではなく、石油の富がかならずしも呪いであったわけではない。1970年代まで、産油国は非産油国と似たような状況にあった。(中略)しかし、1970年代を境にこれらのすべては一変した。

(中略)発展途上地域の産油国のほぼすべてが自国の石油産業を国有化し、これを経営するために国営企業を立ち上げた。(中略)

しかし、すべての産油国が呪いに苦しんだ訳ではない。(中略)もっとも経済的に成功した産油国は、オマーンとマレーシアだ。(中略)政府の指導は重要な要因だ。^④とくにマレーシアでは(中略)政府が巧みな産業政策を実施し、経済の多様化と強力な製造部門を育成したことは賞賛に値する。

注1 「石油」という単語は石油と天然ガスを意味する。石油と天然ガスを総称し単に「石油」と記載する。「石油貿易」,「石油収入」,「石油の富」も同様。「産油国」も同様であり,石油,天然ガスの片方もしくは両方の生産量が人口一人当たりで見ると多い国を意味する。

出典：マイケル・L・ロス著,松尾昌樹,浜中新吾共訳(2017)「石油の呪い 国家の発展経路はいかに決定されるか」吉田書店より一部改変

設問

- 問1** 下線部①「石油の呪い」とはどのような現象のことか,文章にもとづき産油国と非産油国を比較しつつ,130字以内で説明しなさい。
- 問2** 下線部②の通り,石油の呪いは石油収入の持つ特殊な性質に起因する。その性質とは,下線部③の通り,規模,発生源,安定性,隠匿性である。これら4つの性質の内から任意に2つ選択しなさい。その上で,選択した2つの性質について,文章にもとづき,230字以内で説明しなさい。
- 問3** 下線部④の通り,「マレーシア政府が経済の多様化と強力な製造部門を育成したことは賞賛に値する」との主旨が記されている。経済の多様化と強力な製造部門育成のメリットを3つ挙げつつ,賞賛に値する理由を推察し,260字以内で述べなさい。